

# 宮城県脳卒中ネットワーク 宮城県スマイルネット

脳卒中地域連携パス（スマイルネット）の運用による病院間の連携を促進  
様々な施設での情報をオンラインで共有化に成功



スマイルネット使用イメージ

## 導入経緯

多忙を極める現場の業務効率化と施設間連携の促進を図るためにオンラインでの情報共有化

2004年当時は脳卒中の急性期、回復期、維持期、老健といった患者様の流れがスムーズではなく、いずれは施設間連携をしっかりとしていく必要があると考えていました。特に広南病院のような急性期病院は連携をしっかりとやっていきたいという強い思いがありました。

また、急性期病院は多忙を極めており、先生方は教科書を読む時間もないような状況でしたので、業務効率を上げること、施設間連携を促進することの2つの目的で、工夫が必要だと考えました。

具体的には、退院時に作成する診療の要約を共有することを考えました。診療の毎日の要約というのは病院ごとに必ず作成していますが、それらはその病院でしか利用されていませんでした。その情報をオンラインで他の施設と共有することが可能になれば連携も便利になり、診療の要約を共有することで業務効率の向上が図れるのではないかと考えました。

そして、せっかくオンラインで診療情報を共有するシステムを構築するならば、転院の機能も付加し施設間連携を促進したいと考えました。その際、気がかりだったのが、脳卒中連携クリニカルパスに携わる全ての人たちに使ってもらえるものになるかどうか…という事です。

既にアストロステージが他院に納入した実績があったとしても、それがこちらの運用や使い方に合致するかはわかりませんでしたので、そこをうまくカスタム、改良してスマイルネットに関わる人皆が使えるシステムにして貰えるかということが重要なポイントでした。

宮城県には、既に宮城県脳卒中地域連携クリニカルパス研究会があり、紙やフロッピーでの脳卒中地域連携パスが存在していました。そちらのネットワークがスマイルネットの構築、立上げの際にも役立ち、とても助かりました。

## 導入効果

脳卒中地域連携パスの運用により患者様の転院時の情報の持ち出しがスムーズに

スマイルネットは年に数回、ユーザズミーティングを実施しています。先のユーザズミーティングでは、既に紙やフロッピーで連携する脳卒中地域連携パスを運用していた施設は、スマイルネットの導入後、転院時にそういった物を持ち運ぶ手間がなく、大変便利であると話題に上がりました。転院の申し込みをするのも、従来はファックスでやりとりをしていたのですが、ポタンクリック1回になり非常に便利です。

今後についてですが、看護やリハビリのサマリーは、今までは病院の各部門毎に名前や住所、診断名を入力していたので、二重三重に入力されていましたが、スマイルネットで連携することにより、一度詳細項目を入力してしまえば、診療情報が共有され二重入力、三重入力の入力が無くなり業務効率が上がっていくと思います。

## 導入システム

地域連携システム STELLAR NET



スマイルネット使用イメージ

## 導入前の課題

- 業務効率を上げることで多忙を極める医師の負担軽減
- 様々な施設との情報の共有と地域周辺の病院間連携の促進

## 導入後の効果

- 患者様の転院時、手続きなどの病院側の手間を省くことに成功
- スマイルネットでの連携により情報の混乱が皆無に

## 宮城県スマイルネット：システム導入時期 / Dec 2010



スマイルネットは一般社団法人宮城県脳卒中ネットワークが運営する医療機関間共有データベースです。宮城県の脳卒中診療に携わる急性期・回復期・維持期の各医療機関が参加し、診療データベースや脳卒中連携パスを厚労省ガイドラインに沿ったインターネットサーバー上で共有します。日常診療・医療連携の効率や正確性の向上、県内脳卒中発症状況把握などを通じて宮城県脳卒中医療の向上に貢献することを目的としています。

現在、宮城県で脳卒中診療に携わるすべての病医院・老健施設等に参加を募っています。

### ★スマイルネット運用中施設

- ・広南病院 ・東北大学病院 ・NTT東北病院 ・松田病院 ・仙台医療センター
- ・東北厚生年金 ・赤石病院 ・仙台中江病院 ・坂総合病院 ・中嶋病院
- ・仙台リハビリテーション病院 ・総合南東北病院

### ●スマイルネット導入準備中施設

- ・東北公済病院 宮城野分庁 ・みやぎ県南中核病院 ・長町病院 ・仙石病院
- ・公立刈田総合病院 ・あおば脳神経外科 ・大崎市民病院 ・気仙沼市立病院
- ・石巻ロイヤル病院

## 今後の方針

診療の際には、それに付随する様々な書類が必要になってきます。それらのデータを一元化して、効率よく作れるようにしていきたいとします。診療をしていく上では自分の治療成績をまとめて、見直すことで反省し、治療方針を修正したりする事が必要です。それらがやりやすくなるようなデータベースを作り、いつも手元に置いておくようにしたいと考えています。

現在のところ、疾患ごとに色々な連携のシステムがありますのでそれらをひとつにまとめ、使用者から見て連携データベースの入り口は常にひとつであってほしいという希望を持っています。

## 今後の期待・要望

スマイルネットは年に数回、ユーザズミーティングを実施しています。これは利用者が顔を合わせる事により、人と人のネットワークを作っていく事を目的としています。ミーティング時に利用者から頂く意見等も、効率よくスマイルネットに反映して頂きたいと思えます。

人材としては医療とIT技術の双方の分野にある程度知識を持つ必要があると思えます。アストロステージには医療関係とIT技術の架け橋になりスマイルネットをどんどん盛り上げてほしい、そう願っています。

## システム構成図

